

速ある又一驚せざるを得ず、毎日早朝龍動出版のもの夕にスコットランドの山間ウエルスの僻陬に達し、英國全般の事情を知るの尙ほ其市に在るもの、如く同日に知り得ざるものか、し故に時として僻地に於て演士を招聘するも龍動より發して其演地に至り得るなり而して此等の瀛車の速方の一時間五十六哩ありと豈に又迅速あるに非ずや、我日本も斯の如く縦横に鉄道を布設するの日一日も早からんことを切に願ひしけれ

勞働社會の有様

勞働社會の米國の如く各組合にして各組合に各其長あり而して其賃金上に於ての雇主を左右し或は又上流社會を稍進退するの勢あるか如し、畢竟するに皆一致共同して其事業を勉勵し以て常に孜々として怠らざるに在り而して其惣長として社會に名を知られたる者のトマス、ウードと云へり、嗚呼歐米下流斯くも奮發して既に勢力を有して

外國の舞踏

其社會に運動を爲すこと如此し然るに我東洋下流人にして未だ茲に着目するものなきを思へば豈に浩歎に堪ゆ可けんや、  
 下等社會生活の狀況賃金一日ニシルリング(六拾錢)より十シルリングに至る而して其生活に消費するの一日に一シルリングより大抵七シルリングに至るあり抑も朝晝暮の三食の多小米國に類似すると雖も當國人の燕麥を食し且尤も魚類及び牡牛肉等を嗜むが如きの米國に異あれり是れ我東洋勞働者の一日生活に一仙若くは三仙位を費すに比せば其差幾何ぞや  
 然るに我東洋人の彼れが短所ある舞會等の如きを取りて反て彼れが長所ある自主自治の精神其他文物の如きを捨て恬として顧みるものなきの實に怪しむ可きあり蓋し上獨逸の語にてポルカといふ男女二人蹈りを云ふあり苟くも一國の貴顯紳士にして誰家の女とも知れざ



る婦人を携へて舞蹈するが如きの尤も賤しむ可きことにして既に彼の地の具眼者の之を擯斥せり然るに我日本に之を輸入する實に耻づ可きの至りあらざや歐米の風俗を採訪する者少しく茲に鑑みて如何ん是れ予が所謂彼れに摸倣せんと欲せば注自す可しとは蓋し斯の如き贅物輸入を指して云へるものなり

政治思想

政治思想 予米國に遊び始めて同國人民の貴賤貧富男女老若の別なく皆政治思想を有し各自其自由權利を貴尊すると同時に現政府の政略の如何に就て其自説を陳し以て其得失利害を論責して毫も假すあきの氣象を甚だ欽羨したりしに今又此國に來り而して深く其上下社會人心の氣象を察するに大に米國人心の氣風と同一あるを知る蓋し斯の如きは職として唯だ教育の一般民心に普及したるに由らずんばあらず抑も人民教育を貴重するを知れば即ち其知識の開發す可き

青年會

を知るあり苟も智識開發の必要を知れば是れ即ち人間の本分を知る其本分とは天賦自由權利を貴尊す可きを知るあり夫れ唯だ斯の如くバ政治思想は文明人の專有物あるが如し如何とあれバ清國及印度の如きは未だ政治思想其下民に及はずとして獨り歐米人民のみ之れを有すればあり故に若し其國の文明たらんと欲すれば歐米の如く國民をして一般政治思想を養成せしめずんばある可からざるあり

青年會 英國は固より君民共治あるを以て政府敢て人民を抑制せず人民も亦敢て政府に依頼せざるは一般英國人の性質なるに殊に當國青年輩は在學中も精神活潑にして方今我東洋青年の如く聊か學力を有すれば身体保養を名實として避暑するが如きこと亦常に勉學し又時としては海に遊び或は山嶽を跋渉して以て身心の保養に怠るとあし而して世の進歩と其方向を異にせず常に各自結社して青年運動



を社會に試んどせり、同時に青年雜誌を發兌して其方向及び主意を常に社會に公布せり故に我東洋の如く在學中の世事を放棄して學成の後社會に出て其方向に狼狽する如きことなし其一例を擧ぐればラッドストーン氏の大學院より撰出せられて國會議員に列するが如く或はロンドン市中に於て青年主義を以て發兌する新聞雜誌の數十有餘の多きに至る是れ成學の後社會に出て狼狽せざる故に青年の世事を放棄せざるを知るべきあり夫れ青年の國の粹あり若し國の粹にして懦弱かれば豈復た國を維持するを得んや

結婚の方法

結婚 英國は男女共に二十歳以上にあらざれば決して我儘自由に結婚するを許さざる故に一般印度の如く早婚して人生を害するの弊習あるなし而して其結婚の風習模様を擧ぐれば第一學生大抵在學中に其男女相互に其夫婦とある可き者に就て其主義及び其學藝の同しきもの

のを撰び以て數年間互に交際し而して後に果して其借老の縁を契るに足ると思惟する時則ち相互に結婚の約を申込み而して後に結婚を爲す故に他日其社會に出て運動する時に當て左提右携して其働を共にす之を以て其事業や必ず遂げ其目的や必ず貫徹す而して其重なる者を擧ぐれば即ちグラッドストーン氏ホチセツト氏等の夫婦の如く始終相互に扶助して以て世を益し國を利し而して人生を安樂たらしむるも唯此の善良なる婚姻法に由らずんばあらざるあり其次なる即ち中等社會連中は大抵一時の見合即ちハイド公園等に遊び而して其容貌を見て忽ち恍惚として戀愛の情を惹起して以て其夫婦たらんと欲するの意を申込みて忽ち其結婚を契約するものあり予も亦屢々斯る有様あるを目撃せり蓋し斯る風習は未だ善良ありと云ふ能はずと雖も我東洋の如く夫婦相互に其結婚するを好まずと雖も其父母長上



の抑制に由て已むを得ずして配偶するに比すれば其善良ある幾何ぞや

下等社會の結婚風儀

其次即ち下等社會連中結婚の如きに至りては其配偶者の善非を判するもの稀れにして唯聊かありとも其孰れか金員あり家具等を有するあれば則ち忽ち之に配偶す而して一朝其所有の金員等盡くる時は又忽ち離姻して恬として相顧みず故に此の下流社會の人々は今日有婦有夫たるも明日忽ち鰥寡となる者甚た多し然れども世人も亦之を怪むものあるなし

政黨の状態

政黨 英國は數多の黨派ありと雖も責任政府即ち黨派政府ある故に其國會議員撰擧の時に其自黨の勢力を得んとするには必ず唯二派に分離するのみ一を自由黨と云ふ而して平常には其黨に急進あり聯合自由あり然れども其大体の常に取る所は外交政略上に於ては外國

に交渉を好まず内治に於て成る可く自主自治に委任して民力の休養を謀る是を以て大事即ち國會議員撰擧の時には容易に一致し得るなり又一を保守黨と云ふ而して此保守あるものは我が東洋の如く頑固からずして守る可きは則ち之を守り進む可きは則ち進む而して其常に取る處ろの主義外交上に於ては可成的是れに交渉するを好む即ち見る可しバラムの遠征埃及の宣戰等の如き而して其内治上に於ては中央集權を欲す然れども世所謂世運と共に推し移る故に其英國政黨の論議する處は唯政略の如何に在り彼のハチングトン公の自由黨を將ひて保守黨のサーリスベリ公に投して保守政府を組織するか如く畢竟するに英國政黨は其争ふ處唯其政略の如何に在り故に平常其黨派の數多あるも決して愛ふるに足らず如何とあれば其事有るに當ては唯だ二派即ち自由と保守黨に屬するを以てあり此時に當て貴賤男



女老若の差別なく自黨を賛して他黨を排するの氣風あり斯の如く人民一般政黨に熱心にして盡力するの則ち是れ英國人民の特有の性質あり我國の國會開けざる前に既に數多の政黨を組織して政界上に於て其主義の同様ある點あるも決して之に與せず我國人の何ぞ英國の如く政權を中原に相争ふ曉に自由保守二派に分離して充分我黨勢を擴張せざる乎

女權

女權 余歐米諸邦を遊歴して未だ一言の女權に及ばざりしものゝ各國婦女の有様を充分視察して而して後に充分之を我敬愛する日本姉妹に告げんと欲してのみ然れども今一時に各國婦女の情況を告ぐるの亦混雜を免れざるを以て先づ英國の概略を以てす可し抑も英國の男子各自其天賦の自由權理を貴尊するの今更云ふ迄もあしど雖も其女子の如きも既に已に其男女同權を主張して各處に數々會議を開き

一夫一婦たる可きは勿論國會議員たるを得可きを主張して當國に甚だ勢力あり故に己に女子の公民權を取得せしは是れ女子の卒先したるの功業と云はざる可からざるあり而してパリミンナムマンチニス  
 府に於てはウヰリヤムメリー婦人は府會議員の榮職を得たりと云ふ其各地方に於ても尙ほ婦人自から奮て男女同權を主張して之が爲めに盡力するの婦女甚だ多し予も亦屢々同國女權論者に面會して其説を聞きしとありしが概して上下兩社會共に女權甚だ盛あり而して殊に上流社會は禮讓を以てする故に女子の同權を主張するは予輩の甚だ欲する處ありと雖ども下流社會の婦女に至りては天賦の平等權を誤解して相交るに一も禮讓を以て其婦女の男子を道路に於て之を辱かしむるもの亦又甚だ甚かからず若しも男子之を怒て腕力



に訴るか或は之を辱かしむることわれバ忽ち警察署に留置せられて  
 男子の方に道理あるとも大抵必ず其敗訴たらざるを是の如き實  
 に甚たしき弊風に陥れるものと云ふべきあり男女同權論者たるもの  
 宜しく其弊害に鑑み其習ふべきと捨つべきとに心せざるべからず然  
 れども我か東洋の如き未だ女子にして公民權を得んと欲するもの殆  
 んど之れなき何ぞや我國の婦女子等奮て彼の英國女子の如く振起  
 せざるべからず

娼妓

娼妓 英國にては公娼の國家に害ありとし國法を以て嚴しく之を禁  
 せり故に佛國の如く或は伯耳義の如く法律上の汚點あるを然れど  
 も深く下等社會に入つて其徳義如何を吟味する時は二國よりも尙ほ  
 甚たしきものあり予の幼少の時より我國に於ては其父母の疾病の爲  
 め若しくは貧困の爲めよりして遂に其最愛の子女を娼妓となすもの

ありと聞けり然れども未だ嘗て其妻をして密かに賣淫せしめ以て生  
 を營むものあるを聞かざりし然るに英國に來り初めて同國の下等社  
 會には此風習ありと聞けり予の一聞して未だ之を信する能はざりし  
 が予自ら屢々微行して下等社會を熟察するに及び遂に此惡風の英國  
 にしかも其首都の中央に盛あるを實見するに至り大に一驚を喫した  
 り予の此有様を詳かに知るといへども今之を語るに忍びず只聊か  
 一言す當局者宜しく理論と共に實際上をも觀察し而して後に娼妓公  
 許の如何は社會公益の如何に關するかを考察せざるべからずと英國  
 人民の私行上に於ては以上に記する所のみ止らずと雖も他は讀者  
 の推察に一任せんのみ  
 予の前に米國上院議員ヒスコツク氏に面會せし際會て期する所ある  
 を以て氏より當國有名の自由主義者ブライト氏に對する紹介書を得



有名なる英  
國名士アラ  
イト氏談話

しを以て予一日ブライト氏の門を叩き氏に面會せり寒暖の禮終りて予徐ろに謂て曰く東洋特に日本の自由主義即ち平民的主義を抱持せる者は君の芳名を知りて慕はざる者一人として之れあらざるの無し予も實に其一人にして一度君の警咳に接し高説を聞かんことを欲して來りしあり就て予の君に就て質さんと欲する疑問多くあり君幸に予をして其疑問を質さしむるの時間を與ふるや否やと氏の莞爾として笑て曰く予の如き衰老に質疑して見たしとあらば何をか辞せん君夫れ憚るあかれと予乃ち謝し直ちに問ふて曰く我が日本進歩的自由家の十數年來思を焦し心を勞し人民一般に天賦の自由を理解せしめて以て壓制の非理あるを知らしめんとすれど社會人民の之を解するもの甚だ稀あり之れを如何せば速かに人民に理解せしむることを得べきやと氏答へて曰く人民に天賦の自由あり

東洋人民に  
天賦の自由  
を理解せし  
むる最便の  
方法如何

て之を利用するの尙ほ水の低きに就くか如く天然の理あれば日を逐ふて皆之を理解すべし民權家或は政法の酷あるを苛責するあれども實の政府より政法とか集會法とか種々の法律を施せば又必らず民權説の進歩するも早し水も止めざれば流れずとの義の今人間社會に應用するも不可あきあり見よ見よ古シヨン王の世代及び非穀法のありし時穀法論者の益々酷しく穀物輸入を論じて止まず之を論するの愈切にして非穀法論者の之に對して其非を論すること亦益々甚たしかりしにあらすや蓋し其極遂に真理に勝つ能はず真理の世の凡ての必勝者あり此れに由て之を見れば貴國の如き未だ酷たしき壓制家あらざるあり若し夫れ非常なる壓制家出づれば必らず進歩主義者皆合同して其壓制家を倒すや必せり此の時に當ては民權説最も速かに進歩すべしと予此に於て之を遮りて曰く民權説の義の既に命を聞



くを得たり凡そ國の進歩改良の點に於ては内治の改良と外交政略と孰れか先すべきやと氏曰く内治改良最も先すべきあり如何んとあれバ一國を組織するものの一箇人あり而して一箇人皆進歩し改良し得れば即ち一國の進歩するの正の理あり此の進歩したる國と國との交際際たるや實に純潔あり公明あり親愛あり若し之に反して内治の改良に頓着せず唯外交をのみ勉むれば宛かも火を袋につゝみたるに異ならず遂に死灰に至らざれば消滅せざるを得る原より貴國の如き治外法權の天理外ありと雖も尙ほ之れを忍び得べし若し之を忍ばずして治外法權を撤去せんが爲めに内國の不和を來し遂に外國に呑噬せらるゝ如きの最も憂ふべきことあるべしと其他海陸軍事の事實貿易學校等の事に就て談話を得しと雖も餘の皆他日に譲らん別るゝに及び予の前總理大臣グラッドストーン氏に面會するの手續を問ひしにブライ

名士、グラッドストーン氏を訪ふ、

内閣は政黨外に超然たるを得るや、

ト氏の自己の名刺一葉を與へられ之を持ち行かば容易に面會を得んと手其の厚意を拜謝し即ち別れて飯宿せり、數日を経て前日紹介の名刺を手にしグラッドストーン氏を訪へり氏夫人と共に應接室に來らる初對面の禮終りて予徐に問ふて曰く立憲政体内閣と雖も依然超然主義を採り政黨の外に有るの内閣を組織し得可きや且つ斯くするも立憲政体に悖るべきかと氏答へて曰く輿論を施行するの如何に神聖なる天皇陛下と雖も尙ほ之に従ひざるを得ず然るを况んや二三大臣にして超然として政黨以外に有るの内閣を組織し得んや假りに之れ有るも是れ即ち二三大臣の立憲政体に背けると云ふべきのみならず其國君、天皇陛下の意に違背し憲法に悖るものと謂ひざるを得ず故に至誠至公の政体を施行じて人民に満足を與へんと欲せば政黨内閣とあらずに若くものちし原より輿論の常



政治家に與  
論に隨ふべ  
きもの論を  
作爲すべし  
からず

に正理ありと云ふを得ず、時として愚あるあり、事として陋僻あるあり、又學理と輿論の必らずしも背戻すべきものにあらざると雖も亦一致せざることも多し、此を以て正理を以て又學理を以て輿論を作る能はざると雖も其國の安全を致さんとする一國政治家に取りて其輿論を作爲するを以て最も先とせざるへからず、政治家の輿論に隨伴するに非らずして輿論を作らざるへからず、是れ政治家の見識如何にありて存するものにして政治家たるもの、最も秘訣あり、而して斯くの如く輿論を作爲せんと欲するに、須らく政黨に頼らざるを得ず、一國大臣の政黨外に立つ能はざるもの、實に此理によるに外ならず、然りと雖も又時により國體によりて一概に論斷し得ざるあり、即ち其國勢によりて超然策を取らざる可らざる國もあらん、獨逸の如く、三十餘邦の聯合に因りて組成するもの、其聯合各國の風俗習慣性情を酌量せざるべから

ず、是を以て唯一二の政黨に加入するを以て全般の輿論を携提すべからず、之を以て携提すへからずとせば止むを得ず、超然主義を取り、一個の生面を開きて全列邦の概意に觀察を及ぼさるを得ず、如此其風俗を其習慣を其性情を異にする各聯邦より成れるもの、一の凝結力よりも寧ろ遠心力の厚強あるものあれば、區々の論議に拘泥せずして其全邦の民心を威壓するの政策を探るこそ最も緊要の事とす、是れ其止むを得ざるに出づるあり、ビスマルク氏の能くこゝに洞察せるものあり、余輩と雖も若し獨逸國に相たるあらば必らずや、ビスマルクの策を探るの外あり、然れども之れに反する英國の如き、若しくは日本の如きも道理に於て又實際に於て政黨内閣に過ぐるものなし、是れ其國勢を顧みるあらば多言を俟ずして悟る所あらん、之れに反する政策の立憲の本意に背くものと云ふべきあり、篤くと考慮すべし、云々と其他無勢



力と有勢力の混合の恰も摺鉢の中に入れる水の如しと論して種々前説を敷衍され又一國の人民の其智力を發達せしむると同時に實業上の志操を吸入せしめざるべからず、凡て其志操を一方に偏せしむるもの最も不得策あり、智力と金力の車の兩輪に於ける如し、政治上の志操に交るに、又經濟上の事項を忘却せしむる勿れと云ふの主義を以て種々數万言の高説を拜聽せしめられ、談數時の久しきに亘りしも今之を述ふるの閑を得ざるを以て亦他日に譲らん、  
 其他宗教家、實業家に就きて又勞役社會の中に入りて種々の談話を得或ハチソスホールド大學校を一覽せしこともありと雖も要するに、此記文の元と概畧を旨とするを以て今回之を記せず、  
 予英國に留ること四週有餘日にして去て和蘭に向ひて發したりき、

英國社會見聞の大要

第十九世紀の英國の世界第一等國の地位に進み、旭日東天の勢を以て無數の屬土を率ひ海上商權を掌握して、其富強を宇内に雄示するに至りたる所以のもの何くにかある、是れ他ならず、其人民の銳意潛慮以て秩序的に政治を改良し、着々其歩を進むると同時に克く商業に機敏にして利を外國に得て、内に幸福を増進するに勉むるに由る、若し然らずして該國人か内に闘き、利を外に致すに敏からざるあらんか、決して今日の繁榮に到る能はざるべきの昭々乎として何人も疑ひを容れざる所あるべし、世人が常に喋々する英國一片の地利の如き或ハ其の因の一部を爲すあるべきも其大因に至りては實に此にあらざりして彼れにあるべきを信ぜ、然れども予輩が觀察に依れば、彼れが榮耀に伴ふて多くの弊害あきにあらず、其大なるもの、如きの實に倫理の紛亂にあり、又貧富の差にあり、又政治的階級の如きも



其大なるものあり、蓋し法律上の外面より觀れば成程奇麗なり即ち奇麗あり然れども龍動の市中特に日本の銀座とも云ふべき「スツレーン」街「グズンホール」若くは「ロンドン」スツウエリアの如き繁華ある中心市街にして之に住する紳士の行爲貴女令愛の風儀を顧みれば聞に忍びざるもの多し且つ歐米の風俗に於ては未婚の婦女の甚だ能く貞操を守り其風儀を慎しみ夫を定めざる間の他人との交際最も嚴肅ありと雖も一たび婚姻の約を結ぶの後の情夫情婦を求むるに至る是れ一に歐米の社會の男女を問はず何人とも雖も其技倆の如何に由りて如何ある貴顯紳士の妻孀たるを得今日牛飼ふもの、小女たれ朝に餽賣る市の賤が女なれも一朝時を得ば明日の綾羅錦繡を纏ふの令夫人となり夕に駟馬轎車を輾らす新婦たるを得るを期すればあり然れとも婚成り身定らんか大に安んずる所あるを

以て遂に此の豹變を見るものあらん我が日本姉妹の如き其小女の時に於て其未婚の日に於ては時に蓮葉の名を受け轉婆の擯斥を受くるものありと雖も一たび婚嫁するの後に能く貞操を重んじ女徳を守るの風あり彼れと我れと其弊習の前後相反する又一奇ありと雖も何れも惡風たるべきを疑はず世の師父たり教育者たるもの、こゝに注意せられんことを切に希願に堪へざるあり、貧富懸隔の如きは是れ敢て天然の習俗の然らしむるものにあらずして一に各人處世の心意によりて所謂因果應報の理に歸して其結果を呈したるものあるべしと雖も其上下貧富の程度霄壤の差あるの吾人が餘想の外にあり蓋し人智日に發達して社會の進歩年を重ねるに従ひ此の現象を見るに又止むを得ざるものあるべし然りと雖も是れ社會秩序の上にて美事にあらざるを知らば我が日本



の如き未だ此に至らざるに先ち須らく之れが觀察の注意を怠るべからず、而して之れが觀察に一步を進むるに尙他に其因りて起れる由來なきにわらず、曰く政治上の位階即ち是なり、然り而して此政治的位階あるもの、今日に於て何國と雖も其發生を驅除するに到底能はざる業あり、其未だ其發生の十分ならず、其機關の完からざる間に於て深く之に注意し、刀鋸斧鉞を用ゆるに至らしむる勿れ多くの政治家の自己が權謀策として之を發生せしめんとすると雖も不幸にして一たび其階級の生せんか、忽ち上下の反相を生じ、上下の反相を見るや、忽ち貧富強弱の結果とあり、自然交際上にすら其區別を來し、所謂忿怨、暴虐、邪說、詭論の端を開き、壓抑、嘲倒、誇慢、牢固の弊を起すに至れば、亦り愛國の士須らく彼れに鑑みざるべからず、英國の其貴族社會を作り、其階級の制度を來したるの實に止むを得

ざるに出でたるものにして、爲めに徒らに其威權を弄せしめず、立憲政体の實を擧ぐるに、つとめ自治自主の精神、各臣民の腦髓に徹し、平民主義の旺勢を主張するを以て、其階級的弊害の未だ其國に逞ふするを得ざるあり、是れ唯一當國の他に、向て誇るべき點にして、今日の隆盛を維持し得る所以、あらん、吾人東洋國人民の須らく、其原理と應用に注意せ、一を以て他を推すべからず、宜しく其湊合せる各因を看察して、以て大に取捨撰擇すべきあり、予輩の敢て保守に陥りて、自尊攘夷の頑冥を固持するを好まざると雖も、拜歐尊米の急變、猛革を戒しむる所、豈他意あらんや、

堡蘭土に至る

予の英國を去りて堡蘭土のロツテルダムに至りぬ、今茲に其風景及び人情、人民生活の現況を記して、讀者に満足を興へんと欲すれども、先づ一言に云へば、伯耳義國と大差なきを以て、今全く之を畧す、且又當地の政



獨逸ハムボ  
ールグに到  
る

治家及び商業家に對話せし者あれども是亦他日に譲りてこゝに略す、予此地に在留すること二周余日にして去りて獨逸ハムボールグに到りたり、當所の歐洲に於ける貿易上樞要の地にして商業及び製造業頗る盛なり、

獨逸ハ歐洲五大強國の一ある故に市街の模様も逐一記したく、念へども亦之を畧さん、然れども方今我が日本人士ハ獨逸を景慕するの點を評せんと欲するが故に深く精細に彼の國風民性生業生活法及び教育等に就て注目せしを以て予ハ之を別冊に纏め他日別に獨逸風土記を著はさんと欲す、讀者幸に諒焉、

予此地に居ること五十有余日にして去りて再び米國ボストンに航したり、彼處に留まること二十有余日にして又歐洲に向ひベルシオンに到りたりき、斯く再三往來せしものは是れ實に流浪漂泊の身にして、人の

明治廿二年  
三月朔日  
郷國土佐に入

誘へるまゝ、人の隨へるまゝに、其職に服し、其勞に就き以て歐米全局の觀察を得んと欲したるによる、我カ故郷を出で、長崎港を發し、故國を後に願りみし時、其携ふる所の金を數ふれば漸く三圓五十錢に止れるもの、旅行亦止むを得ざるあり、蓋し再三往來の記を其まゝ寫し去るとき、讀者をして厭倦に堪へざらしむるのみならず、本書の一に予が渡航の道すぢを示し、其觀察の大畧を擧ぐるを以て主としたるもの、これハ其事實を湊合錯出し以て以上の全稿を綴りぬ、

時々自ら惟らく、如何に長く留りて人情を察するも別に時日の割合に其利を得ざるべし、寧ろ速かに飯朝して我國將來の方向を論せんに如く、いさしと遂に英國船に投し、南洋諸嶋を経て昨年三月朔日郷國なる土佐に歸りたりき、

日本の現今及び將來に於て歐米に摸倣すべきものハ實業即ち製造た



り、建築たり、貿易たり、海産業たり、農耕業たり、航海術たりを、問はず、苟も致富殖利の生産業の先つ務めて之を盛大にせざるへからず、是れ最も吾人の急務と思考する所あり、夫れ邦國の富裕なるの各箇人の勉勵して其業に従事するに因るの國の東西を問はず、又時の古今を問はず、是れ一般の通理あり、若し之に反して各箇人其業務を事とせざれば、其國貧窮に陥るや必せり、方今歐米の世界第一等の地位を占め、其他の各國其風に倣ひ、其色を窺ふに至れるものは是れたゞ、其國に實業盛に行われ、庶民其業務に奮勵すると然らざるとによれるあり、所謂衣食足て禮節を知るとい、此れ斯の訓戒ある耶。

されば我日本の如きも先づ實業旺盛の氣運を求めざるべからず、其の先覺者たり、其先導者たる人々の須らく後進者を誘掖して百般の實業的職務に従事せしむるに、つとめよ、若し身途こゝに出て、さばいかよ、其

文明を希望するも猶ほ木に縁りて魚を求むるが如し、其根を培養せずして其花實を得んと欲す、奚んぞ之を得るの理あらんや、各業人の勵業則ち一國の勸業なり、各個人の富裕の即ち一國の富裕あり、國富裕にして而して懦弱あるもの未だあらざるあり、今我日本の如き、各個人尙貧且弱あり、日本全土の富且強を得る、又所以あきにあらず、貧且弱にして徒らに志氣豪大あるの恰も支那人が今日の無智瞑盲にして而して尊大自稱たるに等し、此くの如くにして歐米と對肩を望むの實に蟻蠅にして牛に等しきを欲するの愚のみ、人若し之を疑ひ、乞ふ、歐米富強の根據如何を查察せよ、手が觀察の亦實に此の大本を主とせるものあり、讀者幸に予輩が各國の項尾に付して評論を併觀せよ、聊か注意を惹起する所あらん。

如何にして我國今日の地位を高むべしや



我が將來の日本をして歐米諸國に相對比すべき富強の域に至らしめんと欲するに如何ある覺期を以て、いかかる方向に其の針路を採るべきや、而して之を知らんと欲せば即ち彼れ歐米諸國の今日の富強を得るに至りし所以を推究し其發成の由來を訂すを以て最便の道と謂はざるを得ず、果して然らば予の今左に予が觀察上の結果を陳述し併せて之に對する予が卑見を吐露し聊か讀者諸君の教示を請はん、

予輩が觀察する處に因れば歐米の文明の或の學問上より或の貿易上より或の工業上より、或の製造上より、或の兵略上より、或の教育上より、是等の原因の一個若しくは數個の湊合融和したる事實より得たる發達あるべしと雖も之を概するに、彼等の祖先より受承維續したる殖産興業上の企圖心に依れるものありと謂ふべきあり是れ實

際事物上に現はるゝ關係より之を証するに敢て難きに非らずと雖も兎に角夫の衣食足りて禮節を知るの語の實に不磨の確言あり、衣食住足りて而して禮節を知るの字句が果して人意の眞髓を表したるものありとせば從來歐米に於て學術技藝の開發したるもののみを一に殖産の結果として出で來りたるに外ならずと稱するも敢て妄からざるべし、試に思へ、茲に一個の美麗なる漁船ありて其乗込船員に老練ある運轉士あり、精熟ある機關士ありて其船長以下運轉手の全く備はれるあるも唯一石炭の料に欠くるあらん、到底遠航の目的を達する能はざるからずや、若し石炭の料に欠くるあらんか、其運轉師いかに老練あるも其機關師いかに精熟せるも何んぞ其の能を逞しくするを得んや、果して然らば其兩者の各相ひ待ちて欠くる所なく、而して後始めて其漁船の彼岸に達するを得るものたる、今



更ら其多言を要せざるべし

一國の其の進歩を得其文明の美果を収獲し得るの理も亦是れに外  
からず其機關師たり其運轉手たるべき一國の教育家并に政治家の  
みち齊々たる有爲の士人あるべしと雖も如何にせん石炭と云ふべ  
き財力の不足せるおらばいかでか其目的を達するを得ん歐米諸州  
の他に拔で、今日の富強を得たる所以の實に此の機關財糧を増殖  
し之を豊富ならしむるに務めたるにあり如此く從來歐米の文明の  
殖産ある慈母の産出せしものありとせば今我が日本も亦其慈母の  
胎内に宿らざるべからず然れども退きて我が邦人の爲す所を看る  
に唯徒らに文明を口に唱へ文明を筆に論するも未だ之れを得るの  
實際に應すべき手段を知らず之を求むるに最も注意深慮を要すべ  
き所謂財力ある滋養を求むるに覺期を欠けるが如し多くの政治家

を生じ多くの教育家を産するも其一方ある財力乏しくしては焉く  
んぞ國歩の運轉進行を見るを得んや

且つ今や立憲政体と變し資産の多少を標準として参政の權を與へ  
られ之によりて立法者と爲るを得るの制度の下に立ちて尙や空幻  
の理論を喋々し無形的の虚論に奔しり未だ實業に就くの傾向を感  
せず富財の實力を獲得するを輕看せるを思へば轉た憮然たること  
久し若し此くの如くにして永く無用の無理に争ひ國家前途の大勢  
に顧慮するおくんば遂に知らず不識の間に他人に其商權を籠絡  
され其海上運輸の利を占領され生産地に蒸して民業揚らず國費日  
に多端にして之れが償費を得る能はず其國權張らず其國威輝かき  
夫の土耳其にあらずんば埃及の悲惨に陥落し再び起つ能はざるに  
至らん



今日の正さに官民朝野俱に相率ひて利甲厚生の道に心を致さるべからざるの日あり、正さに富國殖利の方途を計企せざるべからず、宜しく其道に向ひて講究すべきの日あり、然れども今日如何ある業を起しいかなる産を盛にして以て其の目的を達すへきか、是れ一の深慮遠謀を費さるべからざる所あらん然れども予輩敢て國家の爲に之を建言すれば未だ外國貿易の利に加くものあらざるべし、實に内國商業あるもの恰も一家内に於ける貸借言ひ得べく、交換に異らざるに等し、貸借の一家内に在るの如何に高利を附して返金すへきものとすも一年末の決算に於て其家の資産に増加を見ざるあり、故に一家の資産を増加せんと欲せば例へ其利子の低廉あるも必らず、他人と貸借を結ばざるべからず、今一國の上に於けるも猶此の理に異ならず、其國內の財力を増殖せんと欲せば其國內の賣買

交換の其の利を致すものにあらず、必らずや海外諸國との貿易を盛にするにありて始めて其増殖の利を來すべきものあり、然り一國の殖利を見るの原因の海外貿易にあるか、果して然らば今一步を進めて如何ある事業を盛にし、如何ある策を取り、如何ある方法を以て之が事に就くべきかを講究せざるべからず、言ひ換ふれば國際貿易の順序是あり、克く之れが順序を算定して、而して後其利便の事物を知らざるべからず、而して其利便の事物どの何そや、曰く智者と愚者との關係是あり、

抑も「ダーウイン」等が唱道したる優勝劣敗の理、又弱肉強食の現象の管に哲學上の講究に止らば、當だに進化説の純理に止らず、此の生存競争の繁雜ある社會に立ちて、殖財致富の方便として深く其の理法を訂し、之を各國の形勢に照合して以て自ら鑑みる處あくんばあ



るべからず原より強者の弱者に勝ち智者の愚者に優るの言を俟た  
 せと雖も弱者の強者の壮大に眩み、愚者の智者の修飾に惑ひ、一物を  
 彼れに請ひ一品を彼に求め、而して其得る所の實利を爲すべく一  
 の實益を足すなく是等眩惑の中に我か財源を枯渴され我か生産を  
 吸取され損益相償はず困憊窮疲極まらざれば其悔ひを引く能はざ  
 るの様ある凡て劣弱者の常あり、是れ亦數の劣れざる所あり、是を  
 以て劣者、愚者、弱者、小者たるもの深く前程に慮り潜かに富者弱者、  
 大者との交換買賣の利害に顧みざるべからず、是を以て之れが害を  
 未發に避け之れが患を未然に防かんと欲せば須らく自己に優り、自  
 己より智あるものと交換の道を開くよりも寧ろ翻りて、自力に等し  
 きもの若く己れより劣り且弱あるものに向ひて貿易を盛にすべ  
 し、是れ實に交換貿易の秘訣にして常に國家の安全を計るの策に過

ぐるのみにあらず、又實に大利を獲得するの一方畧たり  
 蓋し之を疑ひ、歐米人と東洋人との取引間に若目せば遠く思ひに  
 過ぐる所あらん、予の歐米諸國を遊歴して彼の國に日本の商塵ある  
 を見ず、又日本人の販賣所を見ること稀少あり、然れども歐米人の  
 東洋の向處を問はず、少しく人口稠密ある地に、必らず出入して利  
 を其間に争ひ反つて我が商權を蔑視して、單に自利を謀るを以て恣  
 にせり、而して事ここ、に及ぶ所以のもの、他からず、争利の策畧、彼  
 れに敏にして我れに拙ある所以にあらずして、何ぞや此の如き狡智  
 頓點の赤鬚者と利を角逐せんとするの實に、我か分を顧みざるもの  
 爲す所あり、予の速かに彼か如き點者との取引を止めて、我れに劣  
 り我より智あらず、支那朝鮮若しく印度等と親和交通を謀り、以  
 て殖利の道を拓くあらんことを、我か日本人の常に東洋の英國人と



自稱せるにも拘らず、この理に暗く此の方畧に出でずして、支那等諸洲の劣等地との交通を度外視するの予の甚だ疑ふ所あり。大古東西の有様を歴史より追想し來れば、歐米に其發明物なく其固有の生産なく、又學術なく實に一の野蠻ありしも我が東洋の大に之れに反して宗教あり、學術あり、文字あり、産物あり、發明あり、今日歐米文化の誘發物の皆我が東洋に存在し、我れより彼に輸出したりしあり、而して彼之を利用せしも我之か改進を覺らず、遂に彼れに使役せらるゝに至れるの何ぞや、之れが慨嘆すべきを知りて而して之に處するの道を講せざるの又悲痛に堪へざるあり、讀者眼を開きて我が國境の外を眺がめよ、西に英獅既に香港を口にし、印度を手にし、東洋の商權將さに彼れか掌大の中にあらんとす、北に露鷲其鵬翼をサイベリヤに張り、又朝鮮に唾涎せり、嗚呼我れ如何にして

其の間に局立すべき哉

然りと雖も我が日本の強敵の彼れにあらすして寧ろ支那るべし、而して大親友も亦支那あり、支那の我が強敵あると同時に又大益友ありとの夫れ何を以て之を謂ふか、曰く支那の面積支那の人口支那の地質是あり、即ち之れによりて鉄道布設を起して運輸を開き、教育を沿普して殖産工業の基を固くするあらんか、其國勢の振興實に東洋の覇として歐米諸邦に相睨視する決して難きにあらざれば、是に於てか我が日本の強敵たる知者を俟たざるなり、然れども我が士人遠く之に慮るありて善く彼れに親しみ彼れに和し、以て彼を後楯として相ひ雙起せんか、歐米の合縱も豈恐るゝに足らんや、歐米の連衡も豈に怖るゝに足らんや、予が稱して益友と爲す所以のもの實にこゝにあるあり



如何にして我國今日の地位を高むべきや

二二二

幸にして支那と親交を厚ふし幸にして彼れの起つあらんか露國の  
鐵道の「コサツ」を以て横斷し其行路を絶遮し得る掌を反すより容  
易かり若し斯くの如くハ勇猛なる露兵もいかに泥中を騎して來る  
を得ん又焉くんぞ路を南方に迂回し歐洲を横きりて來るあらんや  
是に於てか露國の既に恐るゝに足らざるを知る而して英國も亦然  
り印度に據りて其侵略を障得せんか彼れいかに英武あるも之を破  
りて支那海を渡り日本洋に入るを得んや佛國亦然り獨逸亦然り是  
に於てか歐洲の諸國亦一の恐るべきものなし噫日本の安危ハ支那  
の振不振に在るか而して日本の消長の亦支那の起否如何に係る哉  
我が興廢存亡のかゝる所實に支那の起伏にあるを知らば須らく日  
清交通の旺盛を希圖し兩國間の貿易を發暢せざるべからず而して  
我れ實に之が開發者たらざるべからず我が強敵を回へして彼を無

二の親友とあすを得ると否らざるとの我が今日の謀慮如何にある  
を覺期せざるべからず讀者諸君近く予輩をして知言の名を爲さし  
むるあかれ予輩か意見幸に輕視するあかれ其文卑しく其辭陋ある  
も之を以て其意を措つるあかれ誠に予か數年間歐米印清の間に漂  
流し其實際の目撃によりて漸く感し得たる卑見あるを諒せよ



エトクX6

明治廿四年一月廿五日印刷  
明治廿四年一月廿六日出版

版權  
所有

著者  
登金

依光方成

發行者

野口竹次郎

日本橋區本石町二丁目六番地

印刷者

宮本敦

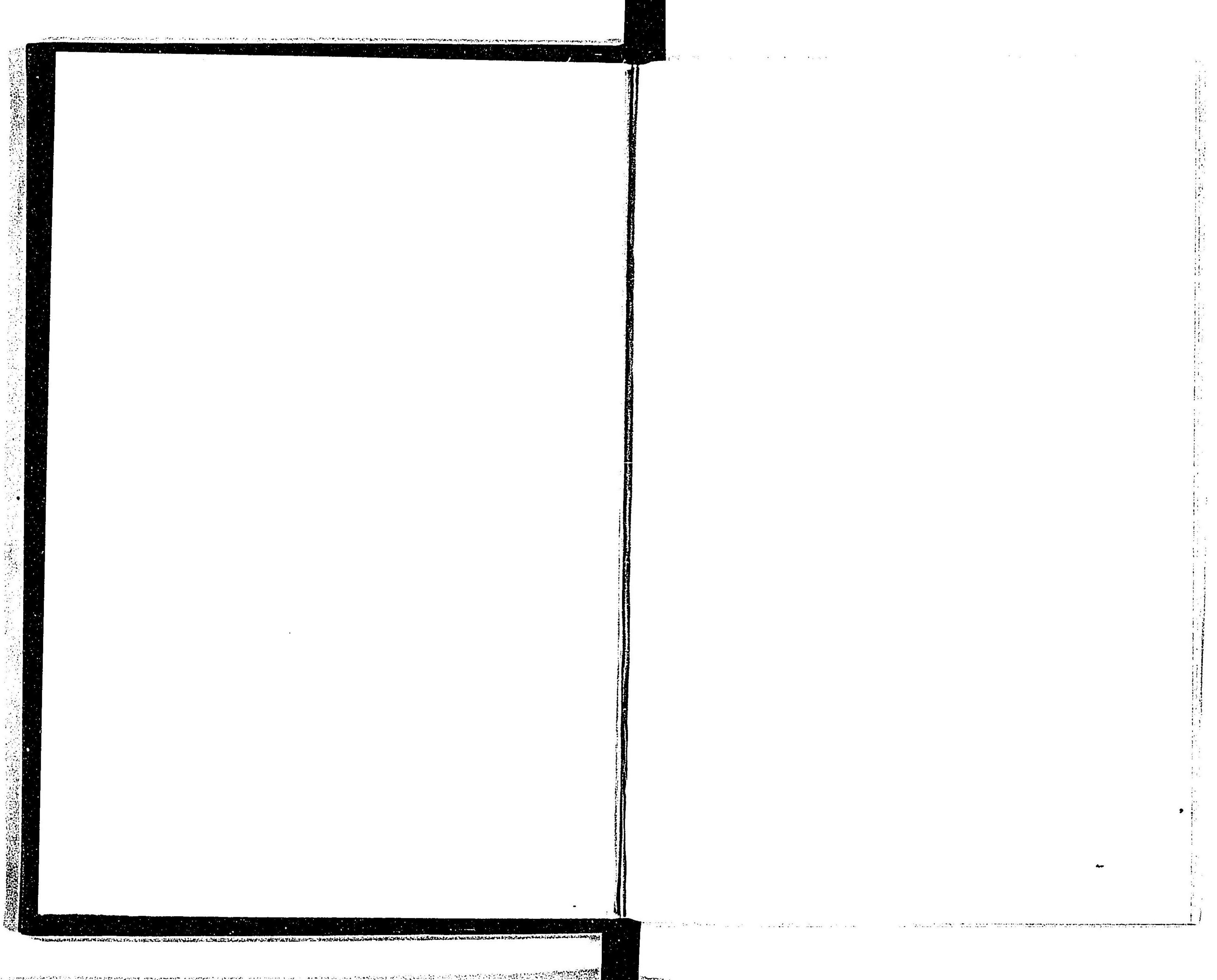
京橋區銀座二丁目拾貳番地

東京日本橋區本石町三丁目

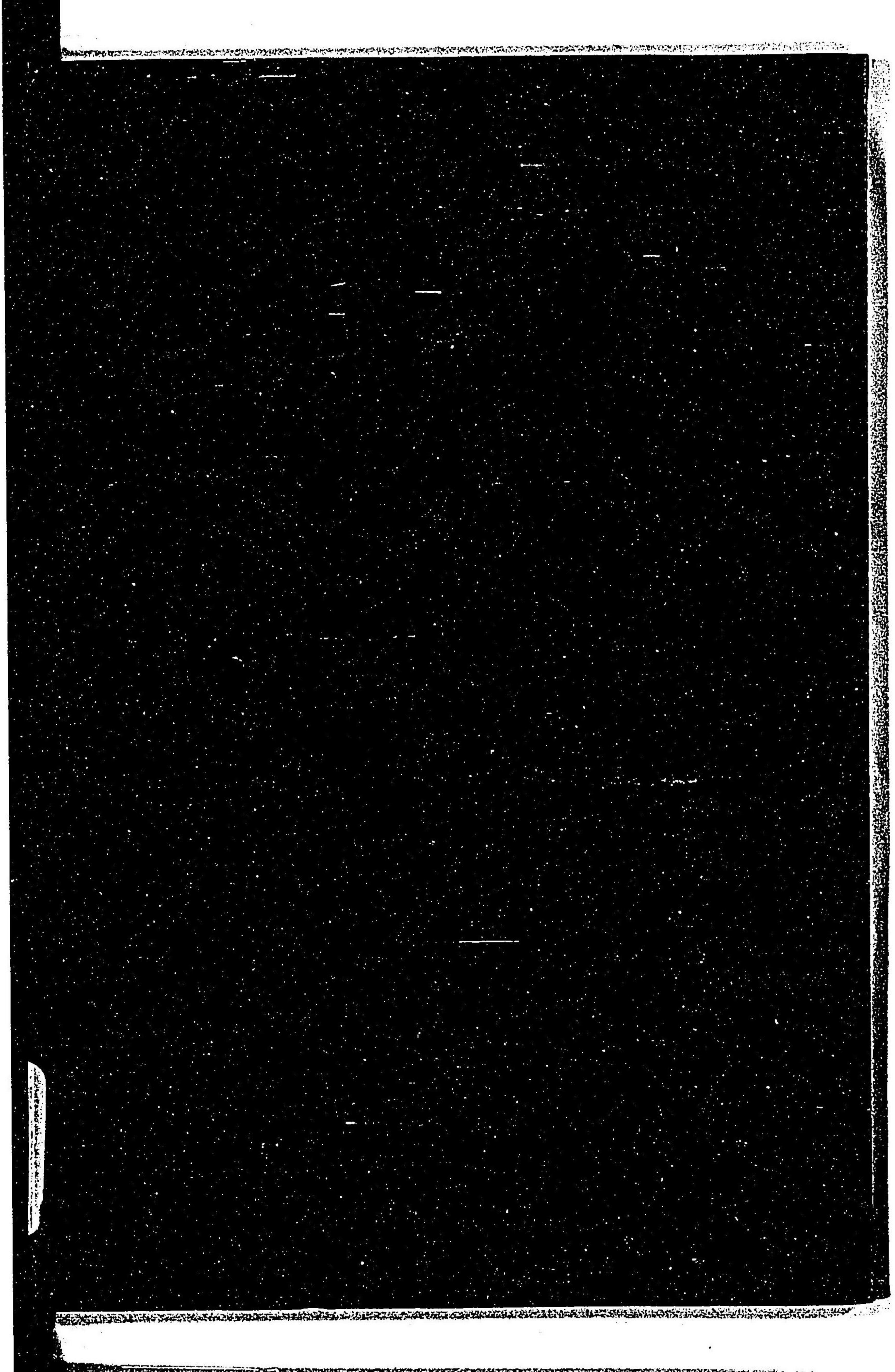
發兌元  
博文館

正價金參拾錢









Small, illegible text or markings located on the left edge of the dark area, possibly a page number or a small label.



31

58

022062-000-9

31-58

世界周遊実記(三円五十銭)

依光 方成/著

M24

ADA-0404





